

た。第一審は十年かかって

いるんです。

しかしこの高裁はわずか

数ヶ月で結審しています。

それは、もしかしたら生き

るということの喜びを知つて、贖罪の人生を生きよう

という気持ちが永山に湧いてきたのを、裁判官は見たんじやないかと。前向きさ

といふんでしようか。それ

が何らかの形で、無期懲役

という判決に繋がった。た

ぶん、ミミさんがないなけれ

ば……。

（判決は）覆らなかつたでしようね。

嵯峨 そういう意味では、本当に奇跡だつたと思いま

す。このように最初に死刑

判決が出て、そのあと無期懲役、そしてまた死刑となつた裁判は、ほかに例がないでしよう。

（編）そうですね。たのにまた死刑、という

そのままにしてみれば、自分がいなければ、そういう喜びや絶望を知ることもなく、死刑を受け入れられたのに、と……。

嵯峨 それが一番つらかったと思いますよ。死刑判決という結果そのものではなく、一度生きろと言つたのにまた死ねという、その残酷な結果のほうがもつと

ショックが大きかつたでしょ。ミミさんは自分自身を責めることもあつたと思います。

## 壁に阻まれた二人の愛について

嵯峨さん自身はミミさんがいうように誰かを愛せると思いますか？ ミミさんはとても大きな愛情を持つた方だな。

嵯峨 いま大好きな人がいる人、あるいは大切な家族がいる人がそのように問われれば、私だって、その愛のためなら例え火の中、水の中と、そんな思いを口にすると思いますよ。それはそうとしても、素直に、ミ

二人での生活があるわけでもないですしね。

嵯峨 ミミさんの手紙の中にもこうあります。「則夫さんのホホにふれたくても触れられない、コーヒーを入れても飲んでもらえないと勇気というか、自分を信じる力というんでしようか」。

嵯峨 まあ、何をしてるんだうれしい気氛かかる」と書いています。そういうこと自体に彼は戸惑つてました。

嵯峨 あえて望むというのは、相手に触れられないと勇気というか、自分を信じる力というんでしようか。

嵯峨 まあ、何をしてるんだうれしい気氛かかる」と書いています。そういうこと自体に彼は戸惑つてました。

## 見返りを求める愛という観点から考える

永山問題。若い女性に読んでもらいたい。



二人の往復書簡

じですよね。

嵯峨 たとえ貧困でなくして、人の命の重さが想像できなきないっていうんでしよう。

嵯峨 その命に繋がつて、それが自分の命にならぬかね。

【後記】 インタビューをさせていただくなかで、気さくに丁寧に受け答えしてくださる姿が印象的でした。永山氏やミミさんから信頼を寄せられていることがよくわかります。

本書は、死刑囚永山則夫とその妻ミミさんとの往復書簡を基にした、一つの愛の物語です。ぜひ多くの方々に本書を読んでいただき、人を愛するということ、また生きることを考えるきっかけになつてもらいたいと思います。

「こんなに人を愛したことありますか？」という。まさにそのとおりなんですが、永山則夫の事件を語らうとするとき、死刑制度や犯罪の問題、少年事件の問題などが語られます。永山則夫を考えるもう一つの側面を見ていくといふものです。事件のもう一つの切り口が生まれる本になります。事件のかなと思いません。

嵯峨 人のラブレターをお願いします。

嵯峨 人のラブレターをこころをさらつたキヤツチコピーデ、まさにそういうところから見てもらえばと

嵯峨 そのおかしいかな、といふのはぜひ読んでもください、といいます。

嵯峨 最後に、読者へのメッセージをお願いします。

嵯峨 人のラブレターをこころをさらつたキヤツチコ

嵯峨 事件の概要をコンパクトに

嵯峨 事件の概要をコンパクトに